

愛媛県の地震

2023年（令和5年）2月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（2月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（2月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（2月）	2
5. 地震一口メモ 推計震度分布図について	3～4

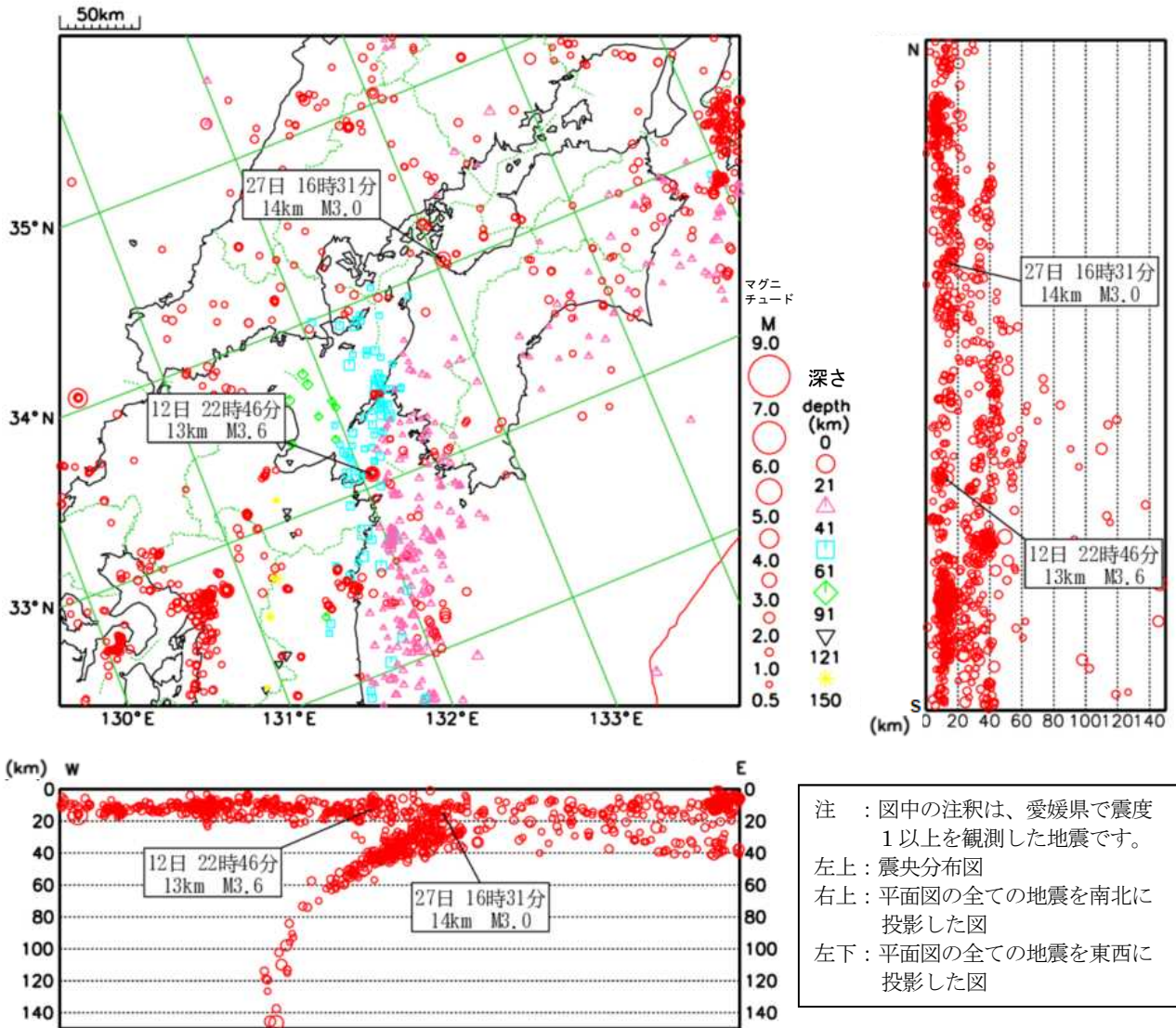
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2023年2月1日～2月28日]



2. 地震概況（2月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 65 回（先月は 57 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 2 回（先月は 1 回）でした。

12 日 22 時 46 分 豊後水道の地震（深さ 13km、M3.6）により、愛媛県西予市で震度 1 を観測しました。そのほか、大分県佐伯市で震度 2 を観測し、大分県、宮崎県で震度 1 を観測しました。

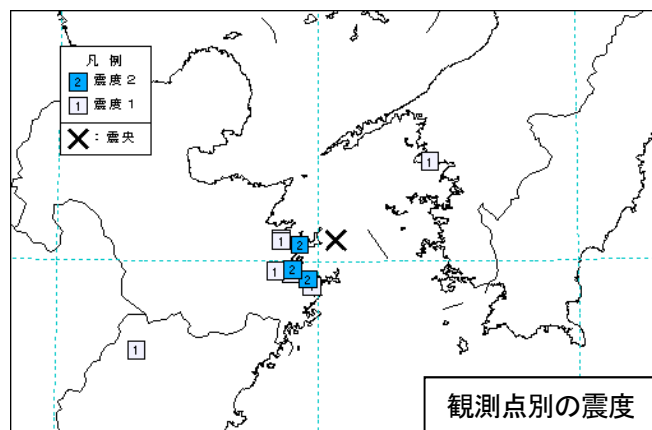
27 日 16 時 31 分 瀬戸内海中部の地震（深さ 14km、M3.0）により、愛媛県今治市で震度 1 を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（2月）

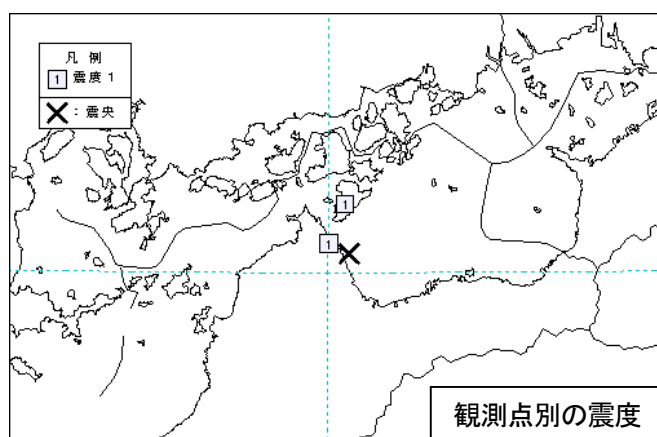
震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
2023年02月12日22時46分	豊後水道	33° 04.1' N	132° 04.2' E	13km	M3.6	2
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：西予市明浜町*						
2023年02月27日16時31分	瀬戸内海中部	34° 02.4' N	133° 03.3' E	14km	M3.0	1
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：今治市南宝来町二丁目, 今治市吉海町*						

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（2月）



2月12日22時46分 豊後水道



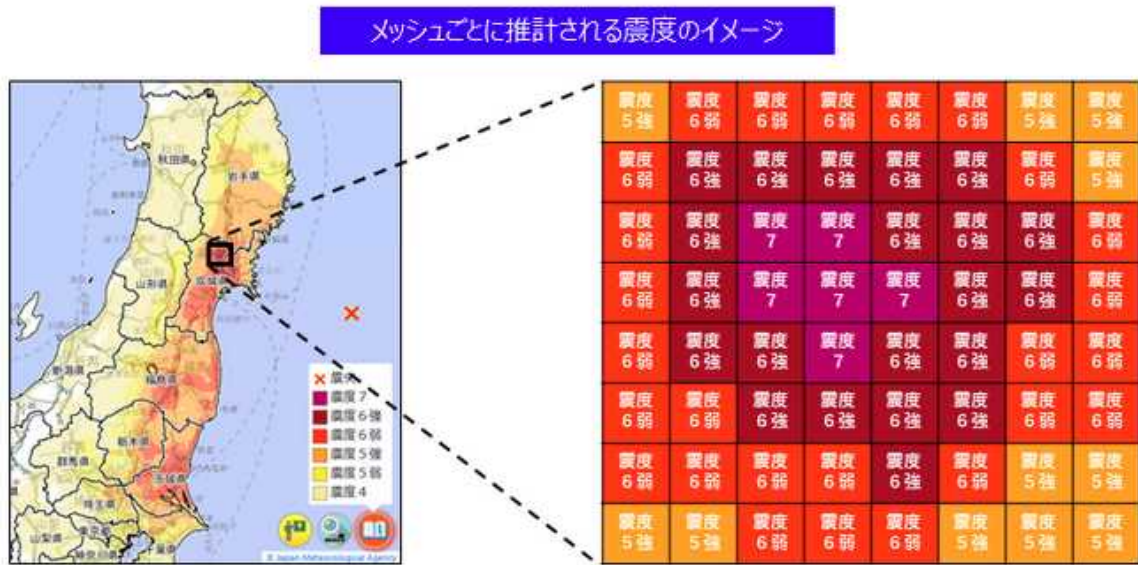
2月27日16時31分 瀬戸内海中部

5. 地震一口メモ

推計震度分布図について

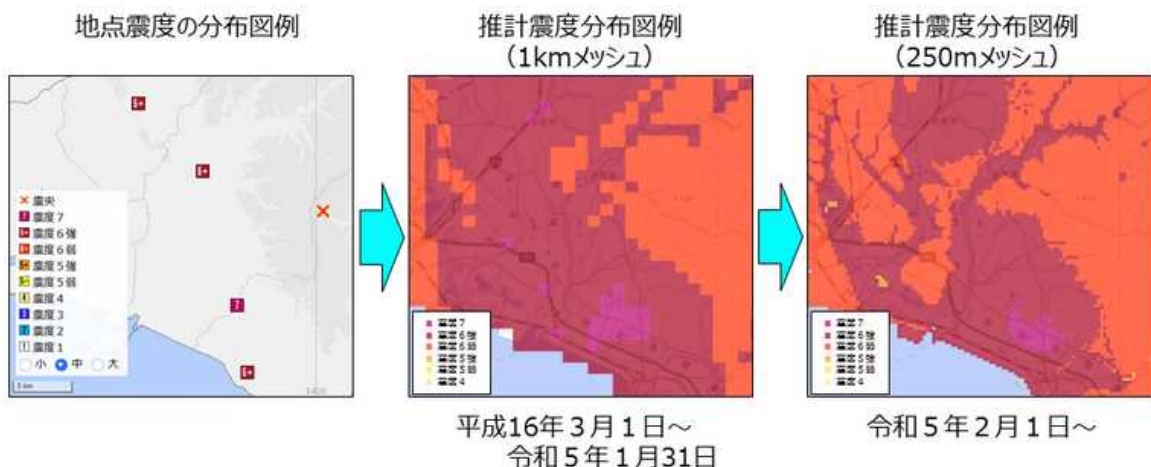
推計震度分布図とは

軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地表で観測される震度は、地面表層の地盤増幅度の影響を大きく受けます。「推計震度分布図」は、実際に観測された震度等を基に、この地盤増幅度を使用して震度計のない場所の震度も推計して面的な分布図で震度を表現したものです。分布図は、原則として最大震度5弱以上を観測した場合に発表し、推計震度4以上の範囲を示します。ただし、震度5弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な拡がりが見られない場合などは推計震度分布図を発表しないことがあります。



令和5年2月1日より、これまでの1kmメッシュから250mメッシュで震度を推計しています。

地震で観測された地点震度の分布図例と推計震度分布図例の比較を下図に示します。推計震度分布図では、震度の大きな地域がどのような拡がりを持って分布しているかを確認することができます。震度が大きく推計された地域は、河川の流域、沖積平野、湿原地帯などといった揺れやすい地盤を反映していることがあります。大きな震度の面的な拡がりを考慮して、被害状況把握などの参考資料としてご利用ください。



推計震度分布図の利活用

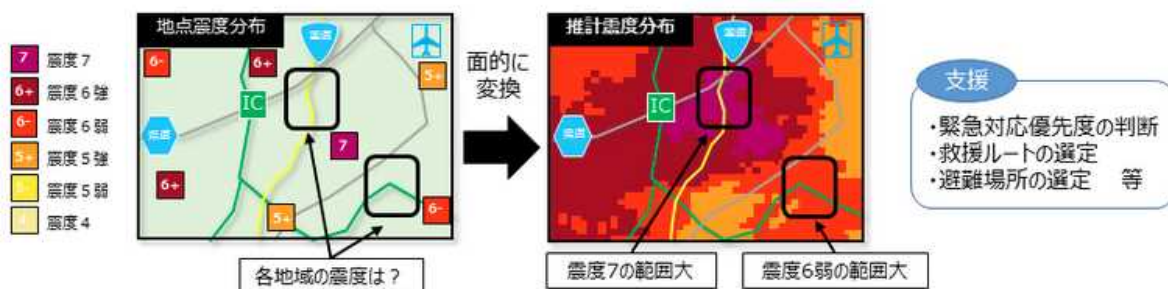
推計震度分布図は、地図データとして活用可能な形式で、メッシュごとに推計した震度情報を提供します。このため、地図に重ね合わせて利用することで様々な活用いただけます。気象庁ホームページでは、地図デ

ータと重ね合わせて掲載しますので、揺れが強かった地域を一目で確認したり、震度計がない地域の震度を速やかに把握することが可能です。

利活用事例の一つとして、地震発生直後の、応急対応すべき優先箇所の判別に活用可能です。迅速かつ適切な救難ルートを選定や避難場所の選定等に活用いただけます。また、メッシュデータを用いることで、ある地域の建物の被害を推計することや、企業活動において、被災地域に立地する拠点・事業所のBCP対応の判断材料として活用いただくこともできます。

推計震度分布図の利活用イメージ

応急対応すべき優先箇所の判別などの際に役立つ情報として活用いただけます。



利用上の留意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

気象庁ホームページ 推計震度分布図について

ホーム>知識・解説>推計震度分布図について

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/suikai/kaisetsu.html>